



平成24年度
地域の教育力を活用した公民館運営とその在り方に関する調査研究
～知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会の構築を目指して～
調査研究報告書



秋田県生涯学習センター



平成24年度
地域の教育力を活用した公民館運営とその在り方に関する調査研究
～知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会の構築を目指して～
調査研究報告書

目次

はじめに

第1章 調査研究事業の概要	2
---------------	---

第2章 チョコボラ・プロジェクトについて

第1節 潟上市チョコボラ・プロジェクト	3
1 地域・公民館の現状	
2 実施内容	
3 事業を振り返って	
第2節 これまでのチョコボラ・プロジェクトについて	7
1 チョコボラ・プロジェクトとは	
2 小坂地区チョコボラ・プロジェクト	
3 角館地区チョコボラ・プロジェクト	
4 山本公民館チョコボラ・プロジェクト	
5 北秋田市チョコボラ・プロジェクト	
6 由利本荘市チョコボラ・プロジェクト	

第3章 地域の教育力を活用した公民館の運営とその在り方に関する調査から

第1節 調査の概要	19
第2節 調査結果	20
I 貴施設について	
II 公民館ボランティアについて	
III 公民館と地域の団体やグループとの協力について	
IV 公民館と住民の関わり方について	
V 学習の成果を生かす施策について	
第3節 調査結果から	38
第4節 事例一覧	40

資料編

調査票

はじめに

当センターでは、平成22年度文部科学省の委託を受け、「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」に取り組んだ。これをきっかけに、「公民館を核としたボランティアネットワークの形成により、学校・家庭・地域の連携が強化され、地域の教育力は向上する」という仮説のもと、「公民館を核とした地域の教育力強化」を基本テーマに、3年間調査研究を行ってきた。

平成22年度は、学校・家庭・地域の連携に向けた市町村の社会教育行政や公民館の実態を中心に調査した。その結果、公民館のもつ重要な機能である「学習支援機能」と「地域づくり機能」がともにその機能を弱めつつあるという現状が見てとれた。その対策の一つとして、社会教育関係職員の資質向上が必要と考え、当センターでは、研修講座の内容や会場を見直し、職員が参加しやすくなるようにするなど改善を図った。

平成23年度は、子どもの体験活動を中心に、小・中学生及びその保護者と公民館の関係について調査するとともに、その結果を市町村教育委員会と公民館に提示し感想・意見等をいただいた。地域の現状により、公民館に行く回数等はまちまちであったが、小・中学生及び保護者ともに安全な場所であってほしいという回答が多かった。市町村への調査では、すべての市町村で子どもを対象とした事業を実施しており、この子どもを対象とした事業を切り口に地域における公民館の役割を再考することができるのではないかと結んだ。

この2年間の調査をもとに、今年度は、「公民館ボランティア」に焦点を当て調査を行った。公民館でのボランティアは、地域で学んだ成果を生かす身近な手段ではないかと考えたからである。

また、この3年間の調査研究では、アンケートによる調査に加え、「チョコボラ・プロジェクト」(チョットこうみんかんでボランティア)と名付けた実践研究も市町村教育委員会や公民館と連携して6件行ってきた。第2章に3年間のまとめとして、今年度実施したものに加え、以前実施したものの概要と現状についてまとめている。それぞれ行った事業内容は異なるが、それぞれの地域において一定の効果を上げていると思われるのでぜひ参考にさせていただきたい。

平成18年に改正された教育基本法では、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設された。「学校・家庭・地域の連携」とも言われるが、「学校」の担い手は当然学校であり、「家庭」の担い手はそれぞれの家庭である。それでは、「地域」の担い手は誰かと考えると、地域に住むそれぞれの住民であろうが、その力を高め結集していくのは、地域の教育の担い手である公民館の役割ではないだろうか。

3年間の調査研究を通して、それぞれの公民館が厳しい現状におかれていることも浮き彫りになった。しかし、このような状況だからこそ、関係者が力を合わせ、知恵を出し合っていくことが必要である。今回の調査では、数多くの公民館から工夫に満ちた貴重な事例を多数報告していただいた。原則として、原文のまますべての事例を掲載したので、本報告書を事業立案の際の参考書として活用されることを願っている。

第1章 調査研究事業の概要

1 実践研究（潟上市チョコボラ・プロジェクト）

(1) 事業の概要

地域の生涯学習・社会教育の核となる「公民館」の活性化と人材育成に向けて、潟上市教育委員会と協力してモデル事業を行うこととし、地区の課題を探りその課題解決に向けて「チョコボラ・プロジェクト」を実施した。

(2) 事業の内容

①チョコボラ・プロジェクト協議会の設置

市内3地区の現状をよく知る方々に協議会委員を委嘱し、公民館及び地区の課題解決に向けて「チョコボラ・プロジェクト」の全体計画及び運営を行った。

②公民館の課題解決に向けた事業の実施

協議会において、公民館を拠点としたボランティア活動の活性化や参加へのきっかけづくりを目指して事業を実施することとした。そこで、既存の団体やグループ、またはボランティアに関心をもつ人たちを対象としたフォーラムと研修会を行うこととした。

2 アンケート調査

(1) 調査の概要

昨年度、当センターで実施した「学校・家庭・地域の連携による地域の教育力強化の在り方に関する調査」によれば、「地域の課題解決や活性化に向けて住民が参画して取り組んでいる事業」を実施している割合は、市町村教委で40%、公民館では27%であった。「新しい公共」の考え方が浸透しつつある昨今、地域の生涯学習・社会教育の中心施設である公民館と、地域の教育力の担い手である地域住民との関わり方を研究することは重要であるといえよう。

そこで今年度は、各公民館で行われている「事業」のみならず、その運営や取組に対して、地域住民がどのように関わりをもち、また、どのような効果を上げているかを調査し、その在り方について研究した。

また、県内各地域で実際に取り組まれている事例をできる限り多く集め、これらを紹介することによって、それぞれの公民館がもっている効果的な事例や取組のノウハウ等の有用な情報の共有を目指した。

(2) 調査の内容

県内で登録されている199館の公民館（公民館類似施設を含む）に対し、「Ⅰ主催事業の有無」「Ⅱ公民館ボランティアについて」「Ⅲ公民館と地域の団体やグループとの協力について」「Ⅳ公民館と住民との関わり方について」「Ⅴ学習の成果を生かす施策について」の5つの項目からアンケート調査を行い、県内各地における公民館と住民との関わりの現状を明らかにした。